

海外豆類事情調査報告書

(オーストラリア)



(シドニー)



(メルボルン)



(アデレード)



(カンガルー島)

平成30年 6月

公益財団法人 日本豆類協会

米国、カナダ、オーストラリア 3カ国の豆類の生産見通し概況

米国：2018年7月12日公表 USDA Crop Production

5月の農業概要（2018年6月12日公表）

米国の大部分の地域では5月の平均気温が昨年並みを上回った。大西洋沿岸地域中央部から五大湖地域を経てテキサス州北部にかけて、平均気温が昨年並みを3.3℃上回った。大平原地域北部及びロッキー山地北部でも同様に気温は温暖だった。米国南東部の大部分の地域では降水量が昨年並みを上回っており、フロリダ州のほぼすべての地域で降水量が昨年並みを178mm以上上回った。ロッキー山地の大部分で5月の降水量は51mm以上であったが、コロラド盆地では乾燥した状態が続いている。コロラド盆地及び大平原地域南部では5月も干ばつが続いたが、テキサス州及びオクラホマ州の一部では状況が改善された。

6月の農業概要（2018年7月12日公表）

6月の平均気温は米国の大部分の地域で昨年並みを上回っており、特に大平原地域及びロッキー山地では6月の平均気温が昨年並みを2.2℃上回った。米国南東部では6月の大部分を通じて気温が昨年並みを上回った。米国の大部分の地域で高温となったのに対して、ニューイングランド州では6月初めの気温が昨年並みを下回り、その後昨年並みとなった。米国の東側では降水量が多く、5月末にこの地域を通り抜けた熱帯低気圧アルベルトの影響で土壌水分濃度が保たれている。テキサス州北部及びオクラホマ州パンハンドル地域(テキサス州とカンザス州に挟まれた細長い地域)では干ばつが緩和されたが、ロッキー山地南部では異常気象ともいえる干ばつが続いている。

表1 米国の銘柄別作付・収穫面積

作物名	作付面積 (ha)		収穫面積 (ha)		単収 (t/ha)		生産量 (t)	
	2017	2018	2017	2018	2017	2018	2017	2018
オーストリアン ウィンターピー	10,720	5,870	3,800	3,520	1.49		5,670	
乾燥インゲンマメ	846,610	742,200	814,520	719,340	2		1,625,900	
ヒヨコマメ	250,420	268,030	242,530	263,570	1.29		313,210	
大粒	177,780	185,060	171,790	181,790	1.31		224,300	
小粒	72,640	82,960	70,740	81,790	1.26		88,900	
乾燥エンドウ	456,490	356,530	425,130	337,310	1.51		643,060	
レンズマメ	446,780	319,300	413,590	304,330	0.82		339,380	
リンクルドシードピー	(未詳)		(未詳)		(未詳)		16,190	

データは入手可能な最新の推定値であり、最新の報告書または前回の報告書の推定データに基づいている。現行年度の推定は2018作物年度全期間に関するものである。空欄は、推定期間がまだ始まっていないことを示す。作物生産量:2018年7月12日公表。米国農務省 (USDA)、農業統計委員会、国内農業統計局 (NASS)。

カナダ：2018年6月21日公表 AAFC Outlook for Principal Field Crops

本報告書は、カナダ農業食料省(AAFC)が5月に公表したカナダの2017/18作物年度及び2018/19作物年度の生産見通し報告書を更新するものである。大部分の作物について、カナダの作物年度は8月1日に始まり、7月31日に終わる。ただし、トウモロコシ及びダイズの作物年度は9月1日に始まり、8月31日に終わる。

乾燥エンドウ

2017/18作物年度のカナダの輸出量は、2016/17作物年度に比べて37%減少して270万tとなる見込みである。これは、世界的に需要が弱まり、特にインド及びバングラデシュで需要が落ち込んだことによるものである。8月から4月までの期間のカナダから米国への輸出量は過去最高記録の水準に達しているが、これは主として米国の

乾燥エンドウの生産量が急激に減少したことによるものである。カナダの期末在庫量は、国内利用量が増加したにも関わらず、輸出需要が弱いことから大幅に増加する見込みである。乾燥エンドウの平均価格は、主として黄色乾燥エンドウの価格が急激に低下したことから、2016/17作物年度に比べて低下する見込みである。

黄色乾燥エンドウの緑色乾燥エンドウに対する価格上乗せ分は、作物年度を通して平均40ドル/tとなる見込みであるが、2016/17作物年度には黄色乾燥エンドウの価格が緑色乾燥エンドウの価格を6ドル/t下回っていた。5月の1カ月間に、黄色乾燥エンドウの生産者価格は5ドル/t高くなったが、緑色乾燥エンドウの価格は輸出需要が引き続き堅調であったことから変化がなかった。

2018/19作物年度のカナダの乾燥エンドウ作付面積は、2017/18作物年度に比べて5%減少して160万haとなる見込みであるが、これは前年度に比べて収益性が低下し

ていることと輸出需要が弱まっていることによるものである。州別にみると、サスカチュワン州が乾燥エンドウ作付面積の56%を占めており、アルバータ州が40%を占め、残りをマニトバ州及びブリティッシュコロンビア州が占めている。

生産量は、作付面積が減少して単収が変わらないことから、6%減少して390万tとなる見込みである。しかし、期初在庫量が増加していることから、供給量は3%増加する見込みである。中国及び米国がカナダ産乾燥エンドウ市場の上位を占めるようになったことから、輸出量は増加するものと予測されている。期末在庫量は減少して60万tとなる見込みであるが、長期的な平均値を大きく上回っている。平均価格は2017/18作物年度に比べて低下するものと予測されているが、これは世界的に供給量が増加し、需要が弱まる見込みであることによる。

米国の乾燥エンドウ作付面積は、米国農務省の予測によれば、20%減少して36万4,000haとなる見込みである。これは主としてモンタナ州及びノースダコタ州で作付面積の減少が見込まれていることによるものである。単収及び収穫を断念する割合が平年並みであるとすると、米国の乾燥エンドウ生産量は、AAFCの予測によれば、12%減少して70万tとなる見込みである。米国は、中国及びフィリピンへの少量の乾燥エンドウの輸出に成功しており、2018/19作物年度も引き続きこの市場に占める割合は変わりなく維持される見込みで

ある。

レンズマメ

2017/18作物年度のレンズマメ輸出量は、2016/17作物年度から急激に減少して150万tとなる見込みである。主要な市場はトルコ、アラブ首長国連邦及びパキスタンである。国内総利用量は前年と同様に60万tである。期末在庫量は大幅に増加する見込みである。全ての品種及び等級のレンズマメの平均価格は、期初在庫量が多かったこと、及びインドがレンズマメ輸入市場でなくなったことから、急激に低下する見込みである。今作物年度はこれまでのところ、大粒緑色レンズマメの価格が赤色レンズマメの価格に対して有利(360カナダドル/t)となっている。5月中にサスカチュワン州産の大粒緑色レンズマメの生産者価格は20ドル/t上昇したが、赤色レンズマメの生産者価格はわずかな上昇を示すに留まった。

2018/19作物年度のカナダのレンズマメ作付面積は、8%減少して160万haとなる見込みである。これは2017/18作物年度の後半にレンズマメの生産者価格が急激に低下したことによるものである。サスカチュワン州がレンズマメ作付面積全体の89%を占め、残りをアルバータ州が占める見込みである。生産量は、AAFCの予測によれば、大幅に減少して250万tとなる見込みである。しかし、期初在庫量が増加していることから、供給量は過去最高記録の335万tに近い水準まで増加する見込みである。輸

出量は2017/18作物年度に比べて増加して180万tに達する見込みである。期末在庫量は過去最高記録の95万tとなる見込みである。等級別の分布が平年並みであるという予測のなかで、最高級の等級の価格が低下しており、平均価格は2017/18作物年度に比べて低下する見込みである。

米国の2018/19作物年度のレンズマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、2017/18作物年度に比べて28%減少して20万haとなる見込みであるが、これはモンタナ州及びノースダコタ州の作付面積が減少したことによる。単収及び収穫を断念する面積の割合が平年並みであるとする、AAFCの予測によれば、2017/18作物年度の米国のレンズマメ生産量は大幅に減少して42万5,000tとなる見込みである。米国産レンズマメの主要な市場は、引き続きカナダ、EU諸国及びメキシコである。

乾燥インゲンマメ

2017/18作物年度のカナダの乾燥インゲンマメ輸出量は、2016/17作物年度に比べて増加する見込みである。米国及びEUが引き続きカナダ産乾燥インゲンマメの主要な市場であり、日本及びアンゴラへも少量が輸出されている。北米からの供給量が増加したことで、2017/18作物年度の残りの期間も引き続き、米国産及びカナダ産の大部分の乾燥インゲンマメの価格は抑制されるものと見込まれる。

2018/19作物年度のカナダの乾燥インゲンマメ作付面積は、他の作物に比べて収益

性の低下が予測されることから、2017/18作物年度に比べて27%減少する見込みである。州別にみると、オンタリオ州が乾燥インゲンマメ作付面積全体の47%を占め、マニトバ州が31%、アルバータ州が19%を占めており、残りがケベック州となっている。生産量は急激に減少して22万tとなる見込みである。供給量はさらに減少する見込みであるが、期初在庫量が多いことで減少率は緩和されるものと予測されている。供給量が限られていることから、輸出货量は減少する見込みである。期末在庫量は減少する見込みである。特にホワイトピー・ビーン及びピント・ビーンについて北米での供給量が減少する見込みであることから、カナダの乾燥インゲンマメ平均価格は、上昇するものと予測されている。

米国の乾燥インゲンマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、減少して56万6,600haとなる見込みであり、これはノースダコタ州及びネブラスカ州で作付面積が減少したことによるものである。単収及び収穫を断念する面積の割合が平年並みであるとする、2018/19作物年度の米国の乾燥インゲンマメ生産量(ヒヨコマメを除く)は、110万tとなる見込みで、2017/18作物年度に比べて16%の減少となると予測されている。

ヒヨコマメ

2017/18作物年度のカナダのヒヨコマメ輸出量は、大幅に増加して13万tとなる見込みである。これは主としてパキスタン、

米国、EU諸国及びトルコにおいて輸出需要が高まったことによるものである。期末在庫量は少ない見込みであることから、価格は下支えされるものと見込まれる。平均価格は前作物年度に比べて低下するものと見込まれており、これは2017/18作物年度の後半及び2018/19作物年度の前半に世界的にヒヨコマメの供給量が増加する見込みであることによる。

この2年間、生産者価格が高まっていることから、2018/19作物年度の作付面積は2017/18作物年度に比べてかなり増加する見込みである。州別にみると、サスカチュワン州がヒヨコマメ作付面積の81%を占めており、残りをアルバータ州が占めている。生産量は2倍以上の25万5,000tとなる見込みである。供給量は増加が予測されているが、輸入量及び期初在庫量の減少により緩和される見込みである。輸出量は前作

物年度と変わらず、期末在庫量は増加する見込みである。2018/19作物年度の等級別の分布が平年並みであると予測されることから、世界的に供給量が増加し、平均価格は低下する見込みである。

2018/19作物年度の米国のヒヨコマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、過去最高記録の27万1,000haとなり、前作物年度に比べて7%の増加となる見込みである。これは主としてモンタナ州で作付面積が増加したことによるものである。単収及び収穫を断念する割合が平年並みであるとすると、2018/19作物年度の米国のヒヨコマメ生産量は、AAFCの予測によれば、2017/18作物年度に比べて36%増加して、過去最高記録の42万tとなる見込みである。米国は引き続き、EU諸国、トルコ及びパキスタンにおける市場占有率を拡大する見込みである。

表2 カナダの豆類作付面積・収穫面積・単収その他

	乾燥エンドウ [a]			レンズマメ [a]			乾燥インゲンマメ [a]			ヒヨコマメ [a]		
	2016-2017	2017-2018[f]	2018-2019[f]	2016-2017	2017-2018[f]	2018-2019[f]	2016-2017	2017-2018[f]	2018-2019[f]	2016-2017	2017-2018[f]	2018-2019[f]
作付面積 (1,000ha)	1,733	1,656	1,565	2,254	1,783	1,639	133	135	99	62	68	140
収穫面積 (1,000ha)	1,677	1,642	1,540	2,221	1,774	1,615	121	131	97	44	68	140
単収 (t/ha)	2.88	2.5	2.5	1.44	1.44	1.55	2.05	2.45	2.27	1.86	1.35	1.82
生産量 (1,000t)	4,836	4,112	3,850	3,194	2,559	2,500	249	322	220	82	92	255
輸入量 (1,000t) [b]	32	12	15	98	40	50	91	95	80	27	55	8
総供給量 (1,000t)	5,042	4,425	4,565	3,365	2,914	3,350	355	419	340	129	152	268
輸出量 (1,000t) [b]	3,944	2,700	2,800	2,455	1,500	1,800	337	355	310	108	130	130
国内総利用量 (1,000t) [c]	798	1,025	1,165	595	614	600	16	24	25	16	17	63
期末在庫量 (1,000t)	301	700	600	315	800	950	2	40	5	5	5	75
在庫量/利用量 (%)	6	19	15	10	38	40	1	11	1	4	3	39
平均価格 (\$/t) [d]	300	260-270	220-250	575	475-485	420-450	885	730-740	765-795	1000	950-960	620-650

[a] 作物年度（8月から7月）。

[b] 輸入量及び輸出量には加工品の量は含まれない。

[c] 国内総利用量＝食料及び加工原料用+飼料用副産物+種子用+損耗。国内総利用量は、総供給量から輸出量及び期末在庫量を差し引いて算出した値である。

[d] 生産者価格（FOB）。すべての銘柄、等級及び市場の平均。

f: カナダ農業食料省による推定。但し、2016/17年度の作付面積、単収及び生産量、並びに2017/18年度の作付面積については、カナダ統計局による。

資料：カナダ統計局及び業界団体。

オーストラリア：2018年6月13日公表 ABARES Australian crop report

概観

2018/19冬作年度の始まりは、良好な条件と不利な条件が入り混じった状況となった。西オーストラリア州、南オーストラリア州、ヴィクトリア州及びニューサウスウェールズ州南部の大部分の生産地域では、秋季の降水量は平年並みを大幅に下回ったが、5月に時宜を得た降雨に恵まれ、これらの地域の冬作の作付けが促進された。しかし、クイーンズランド州及びニューサウスウェールズ州北部の大部分の生産地域では、秋季を通じて平年並みに比べて乾燥した条件が続き、生産者の作付けの意向が大幅に抑制されることとなった。オーストラリアの大部分の生産地域で秋季の終わりの時点での土壌水分濃度は低く、平年並みに比べて低い値、または大幅に低い値となっている。作物の生育には、時宜を得た十分な降水量が得られるかどうかは鍵となる。

気象庁が2018年5月31日付けで発表した最新の降水量3カ月予測(2018年6月から8月)では、冬季の降水量は西オーストラリア州の生産地域では平年並みに近い値となる見込みであるが、他の大部分の生産地域では平年並みを下回る見込みである。

ニューサウスウェールズ州、クイーンズランド州及び西オーストラリア州で作付面積の減少が見込まれていることから、オーストラリアの冬作の総作付面積は、4%減少して2,110万haになるものと予測されてい

る。飼料穀物の価格が油糧作物及び豆類の価格に比べて有利であり、平年並みに比べて乾燥した生育条件が見込まれていることから、オオムギの作付面積が大幅に増加し、ナタネ、ヒヨコマメ及びレンズマメの作付面積が減少するものと予測されている。

主要な冬作作物についてみると、コムギの作付面積は約2%減少して1,200万haとなり、オオムギの作付面積は10%増加して430万haとなり、ナタネの作付面積は10%減少して250万haとなる見込みである。その他の作物としては、ヒヨコマメの作付面積が53%と大幅に減少して52万8,000haとなり、オート麦の作付面積は7%減少して69万3,000haとなる見込みである。

冬作作物の総生産量は、特に冬季の降水量が平年並みを下回るものと予測されている生産地域で、冬季の降水量が時宜を得て十分に得られるものとする、2018/19冬作年度にはわずかに減少して3,770万tとなる見込みである。主要な冬作作物についてみると、コムギの生産量は3%増加して2,190万tとなり、オオムギの生産量は3%増加して920万tとなり、ナタネの生産量は16%減少して310万tとなる見込みである。西オーストラリア州でのオオムギの単収が減少して平年並みとなる見込みであることから、オオムギの生産量の増加率は予測よりも小幅なものに留まる可能性があると思込まれている。その他の作物では、ヒヨコマメの生産量が40%減少して61万6,000tとなり、オート麦の生産量がほぼ横這いの110万tとなる見込みである。

表3 オーストラリアの豆類の作付面積及び生産量

作物名	作付面積 (1,000ha)			生産量 (1,000t)		
	2016-17	2017-18s	2018-19f	2016-17	2017-18s	2018-19f
ヒヨコマメ	1,069	1,116	528	2,004	1,028	616
ファバビーン	233	220	235	484	330	348
フィールドピー	230	222	185	415	289	213
レンズマメ	276	353	270	680	465	385
ルーピン	515	518	445	1,031	631	581

f：ABARESによる予測。

s：ABARESによる推定。

注：作物年度は4月1日から3月31日までの12ヵ月間に作付けされた作物を対象とする。都市部の数値及びオーストラリア北部の数値をオーストラリア全体の生産量に含めるかどうかによって、各表の間で若干の差異が生じる場合がある。

資料：ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、Pulse Australia

表4 オーストラリアの州別生産量

	ニューサウスウェールズ州		ヴィクトリア州		クイーンズランド州		南オーストラリア州		西オーストラリア州		タスマニア州	
	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量
	1,000ha	1,000t	1,000ha	1,000t	1,000ha	1,000t	1,000ha	1,000t	1,000ha	1,000t	1,000ha	1,000t
ヒヨコマメ												
2018-19f	215	241	35	40	250	305	22	23	6	8	0	0
2017-18s	450	360	55	60	575	565	30	35	6	8	0	0
2016-17	480	792	16	28	550	1,150	19	27	4	7	0	0
2017/18年度までの5年間の平均	351	435	32	39	352	517	20	22	4	6	0	0
フィールドピー												
2018-19f	31	28	50	55	0	0	84	104	20	25	0	0
2017-18s	52	52	60	70	0	0	90	125	20	42	0	0
2016-17	50	85	49	100	0	0	100	175	31	55	0	0
2017/18年度までの5年間の平均	50	66	53	65	0	0	105	139	26	39	0	0
レンズマメ												
2018-19f	0	0	120	150	0	0	139	222	11	13	0	0
2017-18s	22	29	150	180	0	0	175	250	6	6	0	0
2016-17	5	10	110	200	0	0	160	470	0	0	0	0
2017/18年度までの5年間の平均	6	9	106	122	0	0	128	232	2	2	0	0
ルーピン												
2018-19f	40	46	30	30	0	0	55	63	320	441	0	0
2017-18s	75	75	35	40	0	0	58	75	350	441	0	0
2016-17	51	66	33	60	0	0	70	100	361	805	0	0
2017/18年度までの5年間の平均	67	75	35	37	0	0	63	76	315	509	0	0

f：ABARESによる予測。s：ABARESによる推定。

注：作付面積が500ha未満である場合、または生産量が500t未満である場合には、四捨五入により作付面積または生産量の推定値がゼロと表示される場合がある。

資料：ABARES (オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、PulseAustralia

表5 オーストラリアの豆類供給及び利用状況

作物名	2011-12 (1,000t)	2012-13 (1,000t)	2013-14 (1,000t)	2014-15 (1,000t)	2015-16 (1,000t)	2016-17 (1,000t)
生産量						
ルーピン	982	459	626	549	652	1,031
フィールドピー	342	320	342	290	205	415
ヒヨコマメ	673	813	629	555	875	2,004
見かけ上の国内利用量 a						
ルーピン	416	290	286	306	398	614
フィールドピー	130	145	175	124	72	148
ヒヨコマメ	93	1	0	1	1	1
輸出量						
ルーピン	565	169	340	243	254	418
フィールドピー	215	177	169	168	134	269
ヒヨコマメ	581	853	629	663	1,145	2,293

a：生産量に輸入量を加えた値から、輸出量を引き、さらに在庫量に明確な変化が認められたか推定された場合には、その値を引いて算出した値。

注：生産量、利用量、輸入量及び在庫量は、市場年度に基づいている。豆類の市場年度は11月から10月まで。輸出量のデータは市場年度に基づくものであって、他の資料で参照されている財務年度に基づく輸出量とは一致しない場合がある。500t未満のデータについては、四捨五入によりゼロと表示される場合がある。

資料：ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、Pulse Australia